

過去分詞について

今回からしばらくは動詞の「非人称形」(formas no personales, 「不定形」とも言う)について学ぶ予定です。

非人称形とは何でしょうか。スペイン語の動詞は通常、現在形であれ過去形であれ主語に応じて変化させて使いますよね。

yo trabajo, tú trabajas, él trabaja, ...しかし、例外的に人称を持たない形が存在します。それは、不定詞(infinitivo)、現在分詞(gerundio)、過去分詞(participio pasado)の三兄弟です。

今日はこのうち過去分詞を考察します。

まず、分詞(participio)とは何でしょうか。英語でも使ったので聞きなれた用語ですが、深く意味を考えたことがない人が多いのではないのでしょうか。「分詞」とは「分かち持つ言葉」という意味です(partelに關係)。何を分かち持つかと言うと、過去分詞は2つの機能を半々で持っているのです。それは動詞と形容詞です。動詞でありながらその文法機能が形容詞であるということです。そしてその意味は「～された」となります。つまり、過去分詞は「受身」と「過去」の意味を持っているのです(「過去」より「完了」がよいという意見もあるでしょうが「過去分詞」の用語が定着しているのでここではそうしておきましょう)。もちろん例外もあり、自動詞(目的語を取らない動詞)の過去分詞は「受身」の意味にはなりません。

例: caer「落ちる」→ caído「落ちた」

さて、それではまずその形式から見ていきましょう。言うまでもなく、規則形は、-ar > -ado, -er > -ido, -ir > -idoと作ります。不規則的なものにcabrir → abierto, volver → vueltoなどがあり、多くが-toで終わります(これらはラテン語の語尾-tuを濁らないで保持)。-choとなるものは次の2つです。decir → dicho, hacer → hecho

初級の教科書にはあまり書いていない二重過去分詞に触れておきましょう。次の動詞は規則形と不規則形の2つの過去分詞を持っています。

例: imprimir → imprimido, impreso; freír → freído, frito

完了形や受動態を作るときなどは、どちらの形も使われるようですが、形容詞として名詞を修飾するのに使われるときは不規則形のみが使われます。例文です。

En esta fábrica las patatas fueron cortadas y **freidas** (または **fritas**) automáticamente por la máquina.

この工場ではポテトは自動的に機械で切られて**揚げられた**。

A mi hermano pequeño le gustan las patatas **fritas** más que ningún otro plato.

私の弟はどんな料理よりも**フライド**ポテトが好きだ。

さて次に過去分詞の用法ですが、もっともよく使われる構文は《haber + PP》でしょう。よくある質問に、スペイン語の完了形は英語と同じで「持つ」+過去分詞なんですか、というのがあります。その通りです。haberという動詞は元々「持つ」という意味です。ただ、現在のスペイン語ではこの意味では使わなくなっています(tenerがありますので)。ところでhaberが英語のhaveに似ているのは語源的には全くの偶然だそうです(ただし、発展する過程で構文としては影響したでしょう)。

完了形と並んでよく使われるのが「受動態:《ser + PP + por ~》」でしょう。

Eva **es querida por** todas sus compañeras de clase.

エバは全てのクラスメート**から愛されている**。

serの代わりにestarが使われることもよくありますが、こちらは何らかの結果を表しています。

Sus obras **están traducidas** a muchas lenguas extranjeras.

彼の作品は多くの外国語に**翻訳されている**。

その他のよく使われる構文を見ていきましょう。

まずは、《tener + PP》です。

Tengo reservada una habitación doble para 3 noches.

私はダブルの部屋を3泊**予約しています**。

Tengo entendido que Madrid tiene muchas ventajas, pero la crisis económica de España es su punto débil.

私の理解するところでは、マドリードは多くの利点を持ちながらもスペインの経済危機がその弱点です。

その他の用法もいくつか挙げます。《dejar + PP》(～にしておく)

Ella salió **dejando abiertas** todas las ventanas de su casa.

彼女は家中の窓を**開けたまま**外出してしまった。

《quedar + PP》はある行為の結果状態を表します。

Al final la Alhambra **quedó abandonada** y la gente casi se olvidó de este magnífico patrimonio.

ついにアルハンブラは**放置されてしまい**、人々はこの素晴らしい遺産をほとんど忘れてしまった。

ところで、よくある質問に「借りる」は何て言うのですか、があります。「pedir prestado」と覚えておきましょう。

Esta tarde voy a **pedir prestado** ese libro en la Biblioteca Universitaria.

今日の午後その本を大学の図書館で**借りてきます**。

次に分詞構文を見てみましょう。現在のスペイン語では、《過去分詞 + 名詞》の順番が普通です。どちらかと言うと文語的な表現ですが、中級のレベルに達した方は覚えた方がよいでしょう。意味は「時」「条件」「原因」などですが、文脈に応じて訳しましょう。

Corregidos todos los errores el profesor devolvió los exámenes a sus alumnos.

全ての間違いを**直す**と先生は生徒に試験を返却した。

過去分詞の前に“una vez”等を伴うことも多いです。

Una vez **leídos** los mails ella los borró de una vez.

一度メールを**読む**や彼女はすべて一度に消去した。

過去分詞は一種の形容詞ですから容易に名詞化します。多くの例があります。helado, cocido, escrito, etc. 最後に名詞化した過去分詞を使った諺を1つ。

Del dicho al hecho hay mucho trecho.

(言ったことから行なわれたことには大きな隔りがある。)

→言うは易し、行なうは難し。

語学の上達はひたすら行なうことです。有言実行で今年はさらに上のレベルを目指しましょう。¡Hasta la vista!

文 仲井邦佳



仲井 邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語 一文法と演習一』(共著、同学社)などがある。